



スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2019年2月26日発行 第95号

居場所づくり勉強会 第55弾 人との「つながり」を取り戻す

オープンダイアローグ

って何だろっ？

3月18日
(月)
14:00
~16:00

京都市地域・
多文化交流
ネットワーク
センター
◆参加費無料
◆担当：小泉

最近、主に精神障害の分野で「オープンダイアローグ」という形式のミーティングが注目を集めています。精神障害に限らず、何かトラブルや人間不信、人間関係のこじれがある現場において、人間関係の「つながり」をとりもどしていく手法の一つです。「当事者抜きではミーティングは開かない」「対話をして答え（結論）を出すことよりも、対話を続けることを大事にする」「不確実性に耐える」などの原則があります。

今回、このオープンダイアローグについて、みんなで勉強してみようと思います。テキストは『オープンダイアローグとは何か』（齊藤環著+訳）、「オープンダイアローグ——対話の実践ガイドライン」などを使います。

「答え」は期待しないで下さい。
「対話」を続ける大切さを学べたらと思います！

こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふう動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ
日時：3月18日（月）
17:00-18:15（OPEN16:45）
場所：油小路事務所2F
持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物
参加費：無料

*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。



日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・橋口

TEL:075-682-7950 E-mail:jcil-kyoto@jcil.jp URL:http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html

この街で暮らす

道草

みちくさ

監督 穴戸大裕

ストーリー

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。
自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。
世間との間に線を引かれ、囲いの内へと隔てられた。
そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。
東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たち。
タンポポの綿毛をとばし ブランコに揺られ、季節を闊歩する。
介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。
叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。
けど、関わらなくなることで私たちは縮む。
だから人はまた、人に近づいていく。

3月23日(土)～4月5日(金) シネ・ヌーヴォ
3月23日(土)～3月29日(金) 京都シネマ

JCILでチケットを買うと 1,700 円のところが 1,000 円になります。

2018年/95分/日本 監督・撮影・編集:穴戸大裕 企画・製作:映画「道草」製作委員会
お問い合わせ:映画「道草」上映委員会 080-3457-8833 info@michikusa-movie.com
HP <https://michikusa-movie.com/> 予告編は「映画 道草」で検索して下さい。

総合支援法が改正されるよ! ? えっ、ほんま? Part174

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



梅の花が咲き始めて、きれいだね。春の気配も感じられるようになってきたね。

そうだね。三寒四温。まだ体調崩しやすいからね。今日はなんの話題だろう。

おっ。映画「道草」。3月23日(土)から京都シネマでやるんだってね。重い知的障害のある人たちの、地域での暮らしを描いた映画。楽しみにしてたー。

うんうん。シンポジウムで早稲田大学の岡部耕典さんが話して、それから、「はみだしていく(仮)」も40分くらい上映されたね。岡部さんの息子、亮佑さんも主演の一人だった。街の、子どもたちやお年寄りの風景の中で、介護者とともに障害をもつ人たちが自然に過ごしていて、なんかじんときたなあ。ユーモラスな場面も印象深かった。その完成版だね。

うん。まだ、重たい知的障害のある人たちの一人暮らしって、なかなか見かけないし、世間でも受け入れられないよね。いろんな、陰ながらの運動や熱意の中で、あのような生活が築き上げられてきたんだよね。

そうなんだよね。何年前かに、運動の成果で、使えるようになったんだよね。障害種別で差があるなんて、おかしいね。

そうだね。そういえば、『障害者の傷、介助者の痛み』(渡邊琢、青土社2018年)の中でも、映画のことが紹介されていたね。映画の中にも、見てて正直つらい、痛ましいと感じる部分もあったけど、この本を読んで、その背後に隠された意味があることを知って、とても勉強になった。私自身もなんか救われた気持ちになったよ。

障害者制度改革について
勉強中のタクオさん
小難しいこともやさしく(?)解説



うん。少し暖かい日も増えてきた感じだね。でも、また寒さが戻るだろうから、気をつけないとね。

今日は、映画「道草」のことや、重度の知的障害・行動障害のある人たちの一人暮らし、それを支える制度のことを話そうかな。

前々回の国際障害者年連続シンポジウムのときに、「道草」の短縮版を上映したよね。ちょうど一年くらい前。そのときは「はみだしていく(仮)」というタイトルだった。

そうだよ。登場していた人たちは、今の社会の中では、相当の苦勞をしてきた人たちだと思う。精神病院に長期間入っていたり、障害者支援施設の中で虐待に近い目にあっていたり。それでも、あの映画に描かれているように、街の中で、介護者の支援を受けながら、過ごしていくことができる。そのことを示してくれた映画だった。

うん。多くの身体障害の人たちが使っている、「重度訪問介護」が最近まで知的障害者には使えなかったんだ。見守りが必要というニーズは明らかなのに、長時間介護保障はなかった。

そうだよ。今は、「行動援護」が使える人なら、「重度訪問介護」の長時間介護も使えるようになってきた。親亡きあとの心配が言われるけど、親が生きているうちから、支援に入っていけば、施設でなく地域で暮らしていくことの見通しもついていくと思うよ。

うん。一人暮らしに向けた支援といっても、簡単じゃないことはたくさんある。でも、前に進めるためには、ぼくらも勉強して、本人や家族とともに、課題を一つずつ乗り越えていかないとね。

Nothing about us, without us

私たちのことを私たち抜きに決めないで

旧優生保護法被害からの人権回復に向けて 優生思想との訣別



基調講演—優生思想・政策の歴史

利光 恵子

優生手術に対する謝罪を求める会

各地からの報告

京都弁護士団／兵庫弁護士団・原告

片方 司 岩手県在住・被害者

パフォーマンス

由良部 正美 × 石井 誠
舞 踏 書 道

コメンテーター

立岩 真也 立命館大学教授

日時 2019年3月31日 13:00～17:00

場所 立命館大学朱雀校舎 ホール 定員300人

終了後は懇親会を予定しています

共催 京都弁護士会 立命館大学生存学研究センター

【お問い合わせ先】 Tel: 075-465-8475 Fax: 075-465-8245

小松食堂

三月の献立

七日(木)

ちらしずし

あさりのみそ汁

デザート

二五日(月)

奥が深い卵かけごはん

テリヤキハンバーグ

サラダ 野菜スープ

どなたでも参加できます。
場所は「松の間」
いずれも一七時から

参加費 三二〇円